Kyoto City Child Rearing Support Center Kodomomiraikan

京都市子育て支援総合センター
こどもみらい館
研究・研修だより

かがやき

Vol.15
2009.
3月

こどもみらい館研究プロジェクト報告会

こどもみらい館では，「乳幼児子育て支援研究プロジェクト」「地域と結ばれた事例研究プロジェクト」「就学前教育研究プロジェクト」の5年間にわたる研究活動をとりまとめて発信するため，昨年12月８日に研究プロジェクト報告会を開催しましたところ，市内の保育士・幼稚園教諭をはじめ，子育て支援団体の方や京都市以外の行政関係者など100名を超える方のご参加を頂き，誠にありがとうございました。

当日は，時間の関係もあり，各研究プロジェクトとも数名の方の発言しか頂くことができませんでしたが，アンケートを提出していただいた９割以上の方から「とても満足・やや満足」との回答をいただいております。また，「自らの保育を見直していきたい」「明日からの保育に生かしていきたい」とのご意見を多数頂戴しています。

さて，昨年3月に告示されました「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」におきましては，保育園(所)と幼稚園とが，互いにその保育・教育内容を理解し，学び合い高め合いながらこれまで以上に連携を深めていくことと，地域の子育て支援の中核施設として，地域の子育て力の向上のために寄与することが求められています。

報告会のアンケート結果は，こうした保育園(所)と幼稚園に求められている今日的な役割について，少なくない示唆を提示することができたと，胸を撫で下ろしています。研究プロジェクトの発足はもとより，この5年間の取組を牽引・支援して頂いた関係者の皆様の先見性に驚かされるばかりであります。

平成21年度，こどもみらい館は開館10周年を迎えます。こどもみらい館といたしましては，各研究プロジェクトで明らかになった成果と課題を土台として，また「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」の改定などの今日的動向を踏まえ，新たな研究事業を展開してまいりますので，引き続き一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年度 京都市教育委員会学校指導課との合同研修会　平成20年11月17日（月）

近衛中学校区の保幼小中連携事業の実践研究発表

～広げよう 地域ぐるみの子育ての輪～

保幼小中連携推進事業については，保育園(所)の保育士，幼稚園及び小学校・中学校の教員等が，校種間の「段差」を理解し，それぞれの取組と子どもたちの発達・成長についての相互理解を深め，「育ちの連続性」を目指す実践を推進するため，平成16年度から実施し，これまでに13箇所の中学校区が研究指定を受けています。

保幼小中連携推進事業の成果と課題を全市に発信するため，今年度の研究発表会では120名余りの参加者のもと，平成18・19年度の実践研究指定校区である近衛中学校区の大津健二近衛中学校長，伊藤進錦林小学校長，菅原さと子聖マリア幼稚園長，藤田光子福ノ川保育所長，金桝純子吉田幼稚園長の5人の先生方から，連携会議や給食交流，講演会の実施等，多様な連携事例を報告していただきました。

続いて，堀内孜教授（京都教育大学大学院連合教職実践研究科長）から指導助言をいただきました。堀内教授からは，「かつては，子どもたちにとって学校と家庭という二元化された空間があった。しかし，高度経済成長を境に子どもをとりまく環境が変化し，子どもたちは学校でも家庭でも24時間緊張を強いられるようになった。これからは子どもたちの実態に合わせて校種間が連携することが大切である。連携することで，小1プロブレム・中1ギャップなどの諸問題が解決できると考える。そのためには，近衛中の実践報告にもあったように『できることから少しずつ』という姿勢が大切である。」とまとめていただきました。

また，参加された方からは，「地域ぐるみの子育ての輪の大切さを実感した。」「一層連携していけるよう園で話し合いたい。」「校種間連携については当たり前のことであるが，今それがとても大切になってきていることを実感した。」などの御意見をいただきました。
堀内教授からも，地域ぐるみの子育てと保幼小中連携の実践が，より一層全市的に浸透していくことを強く実感できた研究発表会であったとの力強いエールを頂きました。

平成20年度 共同機構研修会 第4回 ―― 平成20年10月2日（木）

京都市私立幼稚園協会共催

いま大切にしたい保育の質

～幼稚園教育要領，保育所保育指針改定を踏まえて～

講師　秋田 喜代美　東京大学大学院教授

東京大学大学院教育学研究科教授。専攻は学校心理学，発達心理学，教育心理学，幼児教育学。幼稚園教育要領作成協力委員・保育所保育指針改定委員。研究テーマは，子どもが育つ制度的な場での子どもと教師・保育者の発達，読書やことばの発達と教育。主な著書「子ども理解と保育・教育相談」（共編著），「今を生きる保育者論」（共編著）他多数。

幼稚園教育要領・保育所保育指針の改定の目的は，一言で言えば保育の質を高めることにあり，そのためには３つの方法があると思っています。

１つ目は，保育・教育の内容を充実させていくことです。教育課程・保育課程を作成する目的は，乳児から幼児へと，更には小学生・中学生へと，子どもたちの発達の連続性とその見通しを持って保育を展開することにあります。

２つ目は，保育者の力量を更に向上させることです。今回，保育所保育指針に，保育者の専門的な力量として，「倫理感に裏付けられた専門的知識，技術及び判断をもって」と明記されています。活動のほんのわずかな部分にも育ちの豊かで多様な可能性があります。子どもが何にどのように出会い，出会ったことにより深く関われる経験とは何かを考え，保育を展開していくことが大事です。

３つ目は，保育の自己評価です。欠点を指摘し合うのではなく，保育者が自己の保育を振り返り，お互いが高まっていくことが必要です。そのためには，計画・実践・評価・研修というサイクルと，評価についても項目にチェックを入れるだけではなく，意見を出し合い，それを共通理解できる場を確保していくことが大事です。

もちろん，こうやればうまくいくと，保育は単純化できるものではありません。他の保育者の保育と子どもの姿を見ながら，お互いが学び合うことこそが保育の質を高める日々の歩みです。そこには，若手もベテランもありません。「慎み深さ」もまた必要な保育の質だと思っています。

平成20年度 共同機構研修会 第5回 ―― 平成20年11月5日（水）

京都市保育士会共催

子どものもつ力を育てるために

～カウンセリングから見えてくるもの～

講師　桑原 知子　京都大学大学院教授

京都大学大学院教育学研究科教授。専門は臨床心理学，人格心理学。研究内容は，最近話題になることの多い子どもの事件，問題などを中心に，教育，司法，医療，産業など，さまざまな場でおこる「心」の問題にかかわっている。主な著書は，「もう一人の私」，「教室で生かすカウンセリングマインド」，「カウンセリング・ガイドブック」（共著），「家裁調査官レポート」（共著）など多数。

心を育てるためには，相手を人間として接することがとても大事だと思っています。しかし，たとえば集団の中で人に関わるときなど，気付かないうちに，「人間として」というより，まるで「物を扱うように」接している場合があります。もう一度人のもつ「自己変容性」「多様性」「関係性」に注目して，人間としてきちんと接することを考えていきたいと思います。

＜自己変容性＞

人間には自己治癒力があります。自分で変わろうとする力でもあります。心を育てるためには，人間の生きる力を信じることと見守ることが非常に重要です。例えば，自閉症の子どもに対しては，他の子どもとの関係が結べるようにと，良くないところを矯正するように関わるのではなく，保育者がそばについている，その子を理解しほっとする存在となっていることが最も大切なのです。

＜多様性＞

人間というのは一人一人違います。これが生命を持っているものの最大の特徴です。クラスの中で個性を切り捨てることはとても危険なことです。この子さえ居なければという保育者の思いは，クラスの子どもたちにも伝播し，保育者と同じ反応を示してしまいます。その子とクラス全体を注視しながら，他の子がその子に関わるような保育を展開していくことが大切です。

＜関係性＞

保育者と子どもとの関わりの中で，子どもが変化する可能性はありますが，物を修理するような発想では，人を変えるのは無理です。相手がへんだったり，わけの分からない行動をとるのには何か理由があるのだ，それを「わかりたい」という態度で接する，ここが大切です。

心の問題に関しては，診断をすれば全て解決するというものではありません。手間暇をかけてエネルギーを注ぎながら，子どもを信じ，見守っていくことが必要なのです。

Topics（トピックス）

みらいっこまつり

子どもわくわくコンサート

京都市私立幼稚園協会

12月19日（金），20日（土）に開催された「第9回みらいっこまつり」には，延べ3251人の来館者があり，盛況に終えることができました。共同機構の各団体の皆様にも楽しいイベントを企画・運営していただき，本当にありがとうございました。

エアマットで遊ぼう

京都市保育園連盟

あそびのおもちゃ箱

京都市保育士会

クリスマスの飾りを作ろう

京都市立幼稚園長会

赤ちゃんふれあいコーナー

京都市営保育所長会

Information（インフォメーション）

共同機構研修会

平成20年度こどもみらい館の共同機構研修会は，年間9講座11回を実施し延べ2873人の方に御参加いただきました。各研修会のエッセンスは「かがやき」でお知らせしていますが，本年3月末には「平成19・20年度 共同機構研修会 講義要録」の発行を予定しています。御活用ください。

平成21年度の共同機構研修会の年間計画につきましても，3月中に各園所へお届けします。研修計画の中に位置づけ，多数の方の御参加をいただきますようよろしくお願いいたします。

編集後記

当館着任時に事業説明を聞いた際，「研究」機能が産みの苦しみのなかにあることを知りました。その後，時宜に即した個性的な３つの研究プロジェクトが産声をあげました。歴代の担当者の試行錯誤のなかで各々に展開され，また各方面の皆様にお支え頂きながら，5年目に「報告会」を開催させていただくまでとなりました。当日は，多くの方々のご出席を賜り，発表者共々感謝申し上げます。こどもみらい館の研究の歴史の1ページとして誇りに思います。今後とも「みらいの子どもたち」のための更なる研究のため，ご協力をよろしくお願いいたします。

こどもみらい館館長　　浅野 明美

子どもを育む喜びを感じ，親も育ち学べる取組を進めます。
（「子どもを共に育む京都市民憲章」より）

子どもを共に育む
京都市民憲章
社会のあらゆる場で実践し，行動の輪を広げましょう！

発行日　平成21年3月1日
発行者　京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883　中京区間之町通竹屋町下る
Tel (075)254-5001　Fax(075)212-9909
ＵＲＬ　http://www.kodomomirai.or.jp